



上總の夷隅郡金谷村御嶽明神

其繪ららくして参詣群集せり此

別當へ子と授けり呪法ありて

祈念を頼む事風説高く

爰に房品布良村の演師

夫婦長く子なれを愁て

まの伊勢参宮留主中女房

御嶽不行子を頼む別當

容醉を見せ計り籠りて

祈念をこれ共繪らんとり任せ

奉筆の日數満て帰るふまも帰庵

豆小此事を飲ふまの思様月水の苗

月日の合ふる不疑生れ改く女房を糺閱するに初何も

岩帯のつゆり柱縛り松葉を薫り痛く責むに苦

痛絶くは実の別當がゆゑに我の明神の名代ありと

# 新聞圖會

第六

号



○真々

つふつ

其呪を受より懐妊

其り赤く給られく白狀せり

東條

八花

順平三

事頭を是迄

都合廿四人此呪を

受ると世説高く

既不言の取札

小付と

花源

記

